

平成三一年度 九州歯科大学歯学部 大学院入学式

歯学科第七一回、口腔保健学科一〇回、大学院第五四回 第六回入学式

式辞

本日、希望に満ちあふれる新入生の皆さんを九州歯科大学に迎えることができ、この上もない喜びを感じております。歯学部歯学科、口腔保健学科および大学院歯学研究科に入学した皆さんに対して、九州歯科大学の教職員を代表して、ようこそ九州歯科大学へという歓迎の言葉を贈ります。

また、これまで成長を見守ってこられた保護者の皆さまもさぞかしお喜びのことと存じます。教職員を代表して、入学生諸君が社会に貢献する歯科医療人となる道程をしっかりと支えることをお約束します。あわせて、保護者各位におかれましては、大学とともに新入生の成長を見守り、今後、優秀な歯科医療人になるまで、大学とともに協働作業を行なうことをあらためてお願い致します。

本日の入学式には、小川洋福岡県知事をはじめ、かくも多数のご来賓のご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

九州歯科大学は、我が国にある二九の歯科部を有する大学の中で、唯一の公立大学として、百年余という長い歴史と伝統、ならびに輝かしい実績を持って、歯学教育および歯科医療の発展に大きく貢献してまいりました。九州歯科大学は、平成一八年に公立大学法人として新たな道を歩み始めました。その後、大学改革を進めるなかで、平成二七年に九州歯科大学憲章を制定し、次世代を担う歯科医療人の育成に向けて、これまでの三つの基本理念に加え、六つの教育研究目標を掲げ、実践的な歯科医療人の育成教育の充実に向けて、幅広い教育活動を行っています。

その憲章の前文には、「平成二六年の創立百周年を機に九州歯科大学は、次なる世紀に向けて患者中心の歯科医療が提供できる人材の育成を第一義に掲げ、学生、教員、職員の三者が一体となって、理念の共有と目標の実現を目指します」と謳いあげています。このような環境のもとで教育を受け、実践的な歯科医療人として社会に巣立つことができるよう教職員一丸となって取り組むことをここであらためてお約束します。

その一方で、教職員を代表して、本日、入学した学部および大学院の新入生諸君に対しては、我々の期待に応えるべく、日々の学修、研究に精進することを強く求めます。なかでも、口腔保健学科においては一〇期生を迎えることができ、今後、歯科医療に強く求められる歯科医師と歯科衛生士によるオーラルヘルスチーム活動の担い手として貢献することを願っています。

さて、現在、九州歯科大学は、時代の流れに即した継続的な大学改革を推進し、専門的医療人、すなわちプロフェッションの養成を重要視した教育を行っています。二一世紀に入り、医療系大学において、世界的なレベルでアウトカム基盤型教育が重要視されているなかで、このような教育改編の潮流を歯学部教育にいち早く取り込み、歯科医療人としてのプロフェッショナルリズムの涵養を掲げ、患者優先の考え方に立って歯科医療が行える人材の育成を重要視した教育を展開しています。

現在進めている教育改編では、高い倫理観に裏打ちされたヒューマニズムの精神、さらには、自己の利益よりも他者の利益を優先するという利他主義を兼ね備えた歯科医療人養成を第一義に考えた教育を多面的に展開しています。

このような話しをしたうえで、本日、歯学部に入學した新入生の皆さんにお願いです。諸君は、本學のアドミッションポリシーを十分に理解し、将来歯科医療人として社会に貢献するという強い意志と高い志を持って、本學に入學したと信じています。これから先、九州歯科大学における大学生活において、自らを律した生活を送り、本当の意味でのプロフェッションとして社会に貢献するという強い意志を持ち続け、主体的に日々の学修に励んでいただきたいと思っています。

しかしながら、これまでの初等・中等教育とは異なり、大学での教育では、初めて出合う学問に戸惑うことも多いかと思います。そのような時には、教職員から良きコーチングを受け、常に、夢と希望を失うことなく、社会に貢献する歯科医療人を目指してください。

次に、大学院に入學する学生諸君に申し上げます。どのような学問領域であっても、それを支えているのは研究です。今後、歯学研究科における大学院生として、修士課程および博士課程で研究生活を送ることになりますが、「無知は罪悪である」という言葉をしっかりと胸に刻み込んで、歯科医学に貢献する研究者として、生命科学

における高度の研究能力ならびにその礎となるオーラルバイオサイエンスに関する豊かな学識を養ってください。

その際、自らに課題を課し、その問題解決に自主的に取り組むことを強く望みます。そして、大学院修了時には、口腔保健を通じて国民の健康増進に貢献し、二〇二五年を目途に展開される地域包括医療において優秀な臨床医として、あるいはそれを支える研究者として、医学分野の医療人とともに多職種連携という形で活躍することを強く願っています。

今、申し上げた地域包括ケアシステムでは、医科と歯科が連携して地域住民の健康長寿の延伸を目指すということが求められます。平成二八年度、本学が福岡県に提案した福岡県重点施策が採択されましたが、そこで、口腔保健・健康長寿推進センター (Dental Center for medically compromised patients; 通称 DEMCOP) を開所しました。地域の歯科医師会と連携協定を結び、本センターにおいて、地域医療を展開している歯科医師および歯科衛生士のリカレント教育を行っています。それに加え、製鉄記念八幡病院、ふらて会西野病院、新栄会病院との間で連携協定を結び、そのもとで学部学生の臨床実習を開始し、医科歯科連携教育を強化しました。このような地域に

根差した医科歯科連携教育は、まさに、厚生労働省が推進する「地域包括ケアシステム」の構築に呼応するものです。二一世紀の歯科医学を背負う学生諸君には、先駆け的な教育を展開する本学で歯学教育を受け、歯科医療界のフロントランナー、そして、新たな医療体制のもとで、public dentist、public dental hygienist として活躍することを切に願っています。

現在、ミャンマーの二つの歯科大学、ヤンゴン校およびマンダレー校、台湾の高雄医科大学、台北医科大学、タイのシーナカリンウイロート大学、ランシット大学、フィンランドのヘルシンキ大学など、海外の大学と教育連携協定を結び、学生と教員の連携を深める国際連携活動を行っています。この活動も年を重ねるごとに充実し、夏季休暇中に、多くの学部学生が本学の「九州歯科大学基金」を活用して海外研修活動を行っています。その一方で、タイおよび台湾から歯学部学生が来学し、本学で連携研修を行っています。まさに、双方向型の国際連携活動が安定した形で展開されています。さらに、今年度も、タイから一人の留学生とミャンマーから一名の研修生を迎え、海外連携活動は一層活発になってきました。

さらに、昨年度の創立記念日五月十一日には、ミャンマー政府保

健スポーツ省副大臣、駐日ミャンマー全権大使、さらには、福岡県内のミャンマー留学生が集い、Asia Pacific Conference 二〇一八を開催しました。そこでは、学術講演とともに、Myanmar Night Festival という形での文化交流の場を設け、延べ五〇〇人を超える参加者が集い、両国の交流を深めることができました。今年度は、台湾との交流を深める Taiwan night festival を計画していますので、新入生の皆さんも積極的に参加してください。そして、今年、歯学部および大学院に入学した皆さんは、このようなキャンパス生活を通じて、グローバルな視野を持った歯科医療人になることを切に願っています。

むすびに、第二次世界大戦前後にイギリスの政治家として活躍したウィンストン・チャーチルは、多くの金言を残していますが、そのなかの一つ、「Success is not final、 failure is not fatal: it is the courage to continue that counts。成功は決定的ではなく、失敗は致命的ではない。大切なのは続ける勇気だ」と述べ、失敗を恐れない勇気を鼓舞しています。さらに、このような言葉も残しています。「I never worry about action、 but only inaction。行動するに、少しも恐れは感じない。恐れるのは、ただ無為に時を過ごす

す事だけだ。」。君たちも常に前向きに「可能性への挑戦」という気持ち
持ちを失うことなく励んでください。

明日から大学で、学修および研究生活を送る新入生の皆さんに、
このような言葉を贈り、学問に対して常に真摯に、そして、生涯学
習を通じて実学を身につけ、患者本位の医療人となるまで、夢に向
かって前向きに取り組むことを心から念願して、私の式辞と致します。

平成三一年四月三日

九州歯科大学

学長 西原 達次